

# 経済学史 (2019年度前期)

## 第6講その3: 新古典派経済学——ワルラスの経済学

担当者: 佐々木 啓明\*

---

\*E-mail: [sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp); URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

## ——ワルラスの一般均衡理論——

### ●市場: 財と財の交換の原理

Aさんが財1をたくさん持っていて, Bさんが財2をたくさん持っている状況を考える.

Aさんは財2が欲しいと思っており, Bさんは財1が欲しいと思っている.

Aさんは財1の限界効用が小さく, 財2の限界効用が大きい.

Bさんは財1の限界効用が大きく, 財2の限界効用が小さい.

AさんとBさんはたまたま出会い, 財1と財2を交換することとした.

以下では, 財2の需要と供給を考えてみる.

- 右下がりの需要曲線

限界効用逓減の法則により, 需要曲線は右下がりとなる.

- 右上がりの供給曲線

自分が提供する財の残り分に対する限界効用

→ 限界費用で説明するのはマーシャル流

- 均衡価格

需要曲線と供給曲線が交わる点で, 2人の交渉がまとまり, 交換が行われる. このときの価格を均衡価格と呼ぶ.

- 部分均衡と一般均衡

## ボックス・ダイアグラム

AさんとBさんが存在し, 財1と財2を交換することを考える(交換経済).

- 契約曲線
- 初期賦存量, 予算制約(予算線)
- パレート効率的な資源配分
- ワルラス法則